

国から700種類、2万個余りの多種多様な風鈴が集められ、特色ある音色が心ゆくまで楽しめる。

門前に並ぶだるまさんの歴史は古く、江戸時代から「厄除・開運だるま」として特に有名で、「七転八起」の言葉どおり、何度転んでも起き上がるところから、家内安全・商売繁盛・事業繁栄、諸事の目標達成の祈願、縁起物として庶民に親しまれてきた。手のひらにちょこんと乗るミニサイズから企業や選挙で使われている特大サイズまであり、誰でもお好みのだるまさんが見つけれられるはずである。

なお、名物のくず餅は、小麦粉の澱粉でつくる関東風くず餅の発祥の地とされ、江戸時代には東海道を行く旅人に愛されたようである。門前には20軒ほどの店が味を競って立ち並んでおり、上品な甘さで、甘党族には大いに歓迎されている。そのほか江戸前の食材を使ったすし、そばなども大いに楽しめる。

(利根地下技術㈱ 荻須一致)



▲山門



▲名物くず餅



## 私の履歴書

今回は事務局がご多忙な湯沢副会長を本社にお伺いしてインタビューしました。

岩盤削孔技術協会副会長 湯澤 栄次  
日本基礎技術㈱ 代表取締役社長



湯澤 栄次 (ゆざわ えいじ)  
昭和23年7月17日栃木県生まれ。  
平成元年日本基礎技術㈱入社。  
平成13年代表取締役社長就任。

### ■学生時代

足利市の北部、周囲を山並みに囲まれ、松田川の清流と天然記念物、名草巨石群のある山里で、春はワラビ、ゼンマイなどの山菜とり、秋はキノコとりをして遊んだ。四季を通じて山里は、さまざまな美しさを見せてくれる。小中学校時代は「サッカー」や野球が好きで、近所の仲間と草野球に興じた。

「土木」へ進みたいく、田舎育ちであり、都会より地方の大学に行きたいこともあり、

「信州大学の土木科」へ進んだ。山が好きで、大学時代は7月・8月に北アルプスへの夏山登山を4年間続けた。

### ■社会に出てから

ゼネコン17年間勤務後、日本基礎技術へ入り、技術部門に配属された。当時西ドイツ・パウアー社の大口径削孔機・BG機を導入して間もないので、BG工法勉強のため、1カ月間ほど西ドイツ各地の現場を多数まわり勉強した。支店に5年間勤務後、技術本部に戻り、イタリア・トレヴィ社から新トンネル工法（崩壊性山地山のトンネル掘削の補助工法、アンブレラ工法）が導入された直後であったので、打ち合わせや現場視察でイタリアにも何度か行き、イタリア人とも親交を深め、友人もできた。公団・大手建設会社の信頼を得て、これを軌道に乗せた。

社長就任時の仕事は「環境関連事業の拡大」（土壌浄化部門・汚染拡散防止部門・景域、緑化復元部門）と「企業体質の改善」（仕事の量に見合った組織と人員体制の見直し）の2つ。強運といえば、小児のとき、疫病を克服し“九死に一生”を得た。

### ■信条・趣味

モットーは「一日一日を大切に生きる」。後進の育成は、社員1人ひとりの技術と技能をアップさせる研修（新入社員研修・選抜制の施工研究員制度・選抜制の課長研修）を自社保有の研修センターで行って、ユーザーの信頼を得ることに努めている。

福利厚生施設として、自社保有の保養施設「ニチユーシーサイドクラブ」がある。社員とのコミュニケーションは、各支店・各現場視察時に、支店幹部との夕食会で「腹を割った話し合い」をしている。

趣味は「音楽鑑賞」、「散歩」（休みの日には、必ず近くの駒沢公園を1時間かけて1周）、「ゴルフ」を少々。ドラコン賞よりニアピン賞が多い腕前とか。社長の趣味は「仕事ですよ」といった社員評価もある。

### ■将来の展望

21世紀は水・土・緑（木）とクリーンな環境の世紀となる。自然の改変を伴う建設工事に従事する者にとって、環境保全型技術の開発が急務と考えられる。加えて公共事業に対するコスト削減型の技術開発も急務と考えられる。

激務ゆえ、健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葭田誠作)